

○協働のまちづくり提案事業 参加団体の意見一覧表

項目	意見
審査委員会	いろいろな層の人がいた方が良い。 審査基準が曖昧である。 委員の思いで合否が決まる。
審査	多数の人が集まるイベント事業が選ばれる。 審査は通過しても1年契約が良い。 今後1、2年の将来展望、目標も審査項目に入れる。 重点課題があるため、その課題に沿った事業が、高得点を取れると思った。(実際はそのようなことはない。)
審査会	パワーポイントを作るのが大変なため、市役所が作ってほしい。 プレゼンテーションのスタイルは何でも良い。
報告会	無い方が負担は少ない。
協働課	申請の受付から協働課に手伝っていただき、助かった。 行政側も遠慮せず、腹を割って意見を言ってほしい。あれはダメ、これは良いと意見を言ってほしい。 専門知識を持った課が、いろいろアドバイスしてほしい。 協働する課は必ず欲しい。 関わりは良かった。人集めが難しいが、集めてもらい良かった。公共の場所も借りられ良かった。自社の駐車場だと狭い。 気持ちを込めて、楽しんでやってほしい。 手伝いではなく、主体となって行ってほしい。そうしないと温度差がある。 仲間として参加し、対等の立場で出てほしい。
協働の効果	アンケートでまたやって欲しいとの声が多かったので良かった。
その他	事業計画に縛られず柔軟に対応してほしい。 年度途中の受付があれば利用しやすい iプラザだけでなく各支所単位で講演会をしたい。 回覧板は効果がある。(豊岡地区) 介護職(包括支援センター、ホームヘルパー)は、月末、月始の土日でも忙しいため、講座日はそれ以外が良い。 企業は予算があるため、委託金を抑える。NPOは予算が無いので手厚くする。 市民活動センターでの周知が足りない。 NPOは売上金500万以上の団体が少ない。 参加者にはダイレクトメールを出し、メールを回収しフォローしている。

<p>その他</p>	<p>提案事業にこだわらず、各課で団体と協働できる事業、計画している事業を提案事業として扱い予算を与える。 団体運営の弱い人たちをフォローする。 浜松市のがんばれ応援事業は補助金 5～8万円です。書類は全部で3枚で負担が少ない。 事業計画に縛られず柔軟に対応してほしい。例：生徒の数が減った場合、それに固執しない。 他の補助金と一緒に活用したい。一つの補助金だと小額のため。 投資金額と効果を定量で計る。定性評価ではなく、顧客満足度をアンケートで計り、定量化する。満足した、ダメなど。評価方法の是非も議論する。追跡調査(半年、一年後)し、発展したか否か、その後も参加者本人に影響を与えたかを聞く。 社会貢献ができ、非常に良かった。平成22年度以前より協働しているため提案事業に違和感はなかった。予算が欲しい団体は、年度途中の受付があれば利用しやすい。当社は予算があるため問題はない。 提案事業と、通常の課との協働の違いが分からない。提案事業に応募すると協働課で予算が付くと思った。2年目の提案は、採用されるのが難しいと思った。 応募要件の説明不足がある。重点課題を協働で決めたらどうか。自治会の代表、役員が出て重点課題を決めたらよい。 プレゼンテーション講座は、要点がまとまり参加して良かった。この講座は自由参加が良い。</p>
<p>総括意見</p>	<p>申請団体を面談し、総枠で予算を調整する。おかしな事業以外は全て採用する。 制度をガラリと変えるのではなく、少しづつ変える。</p>